令和２年度

環境経営レポート

～未来のこどもたちのために～

エコアクション21
認証番号0007445

第３３回 優秀板金製品技能フェア 出展作品
～　ブーケ　～

2017 環境コミュニケーション大賞 優良賞 環境活動レポート部門
2019 環境コミュニケーション大賞 優良賞 環境経営レポート部門
2021 環境コミュニケーション大賞 優良賞 環境経営レポート部門

活動期間：令和２年10月～令和３年9月
作成日：令和４年8月３１日

株式会社 坂口製作所

目　次

●会社概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・～1～

●主要製品の紹介・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・～2～

●実施体制図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・～3～

●令和元年度総括と今後3ヵ年の目標設定・・・・・・・・・・・・・・・ ～4～

●環境経営計画の取組結果とその評価・・・・・・・・・・・・・・・・・～6～

●健康経営優良法人への取組み・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・～16～

● SDGsの取組み、社員教育の実施及びエコ活動 ・・・・・・・・・・・～17～

●地域社会への取組みその1・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・～18～

●情報発信ツールの開設・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・～19～

●地域社会への取組みその１・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・～20～

●地域社会への取組みその２・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・～21～

●地域社会への取組みその3 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・～23～

●地域社会への取組みその4 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・～24～

●ブーケの加工ポイント　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・～25～

●環境関連法規制等の取りまとめ
代表者による全体の評価と見直し・指示・・・・・・・・・・・・・・・・～27～

会社概要

●事業者名：株式会社 坂口製作所

●代表者名：代表取締役社長　坂口清信

●所在地

★本社
〒557-0054　大阪市西成区千本中２丁目４番１４号　従業員数：10名

★和歌山工場
〒643-0521　和歌山県有田郡有田川町清水877番地の1　従業員数：71名

●事業年度：10月～9月

●事業規模：製品出荷額 11億円/年

●事業内容：工業用各種アルミ・ステンレス製品の設計、開発、製造、加工及び販売

●主要製品：鉄道車輌部品、信号器具箱、工業用各種トレー、空調関連機器等

●環境経営理念

当社は工業用各種アルミ・ステンレス製品の設計・製造・加工・販売を行っている会社です。アルミ、ステンレスはいずれも高い耐食性とリサイクル性を有する素材であり、又軽量なアルミには省エネ効果も期待できます。つまりアルミ・ステンレスは循環型社会、低炭素社会を実現する上で無くてはならない素材であり、鉄道車輌、製薬、エネルギー等あらゆる産業分野において今後その需要が益々拡大していくことは間違いありません。これら社会の要請に応え、同素材からなる製品の普及・発展に寄与し、もって持続可能な社会の実現に貢献することは、アルミ・ステンレス加工のプロたる当社の責務であると考えます。

この責務を果たすには、当然ながら当社自身が維持・発展していくことが不可欠です。一方、当社が生産活動を進めていく上で、電力等のエネルギーの消費、廃棄物の発生は避けて通ることはできません。したがって当社は、売上拡大を目指しつつも同時に生産効率の向上と品質管理の徹底によりエネルギー使用量の原単位を下げ、廃棄物の発生量を極限まで低減する必要があります。

以上のことから当社は、以下の項目を重点課題と捉え、全社一丸となってこれらの課題を高いレベルでクリアしつつ、更なるレベルアップを継続的に推進することを、ここに宣言します。

●環境経営方針

1．環境法規制や当社が同意するその他の要求事項を遵守します。
2．単位売上あたりの電力・化石燃料使用量を低減し、二酸化炭素排出量の削減を進めます。
3．一般及び産業廃棄物の削減を進めます。
4．排水量の削減を進めます。
5．地域ボランティア活動への協力等を通じて、地域社会とともに環境保全に取り組みます。
6．グリーン購入を計画的に進めます。
7．化学物質については法令を遵守し、適正に管理します。
8．製品への環境配慮を進めます。

制定日：平成22年11月4日
改定日：平成30年9月29日
代表取締役社長：坂口　清信

●主要製品の紹介

弊社は完全受注型の生産方式、主に鉄道車輌関係の部品や鉄道の踏切や線路脇に設置される信号器具箱、製品の滅菌処理で使用される工業用アルミトレー、選挙で使用される投票箱など、多岐にわたる製品を製作しています。

　また、弊社独自の自由設計が可能なクリーンブースの製造技術を活用した応接室や喫煙ブースなどを社内に設置しています。

＜鉄道車輌関係＞

＜食品工業用・製薬用トレー＞

＜信号器具箱＞

＜投票箱＞

＜クリーンブースの製造技術を活用した応接室や喫煙ブース（和歌山工場内）＞

※HPにオリジナル製品を閲覧出来るページを作成しました。HPからオリジナル製品を購入することができるので、是非見てみてください。

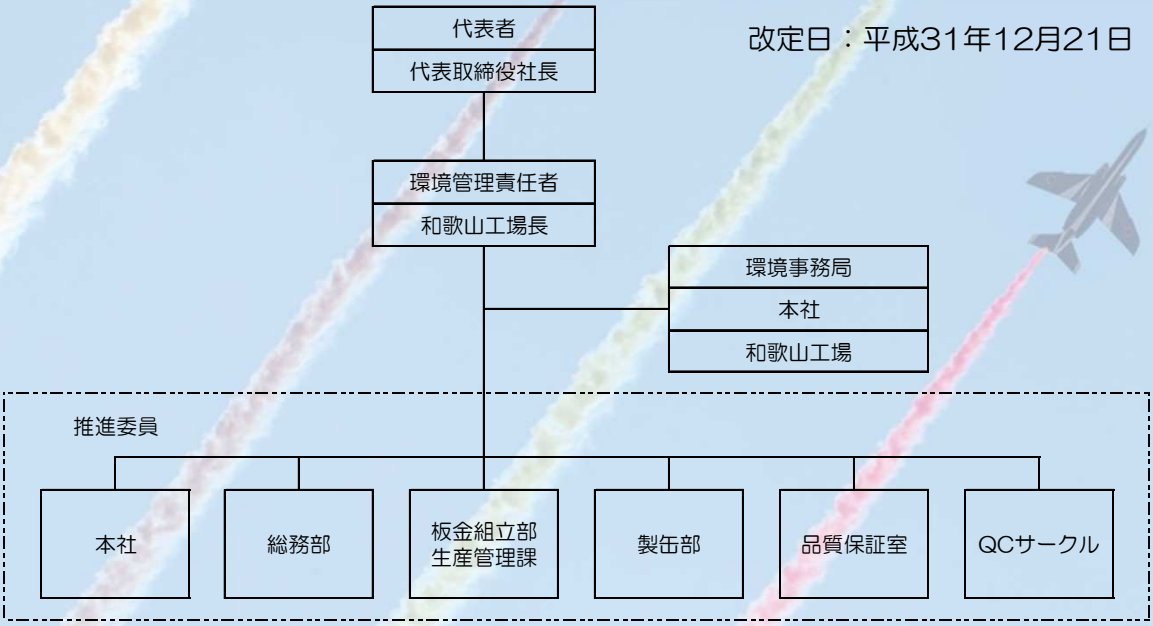
●SDGsの進め方

弊社は2011年にエコアクション21の認証を受けました。以降、環境に関する取り組みを継続しており、2017年と2019年、2021年に環境コミュニケーション大賞で優良賞を頂きました。

また、特に優良な健康経営を実践している大企業や中小企業等の法人を顕彰する「健康経営優良法人」の認定も取得しています。特に2021年には健康経営優良法人認定企業（大企業部門を除く）のうちで優良な上位500社に与えられる「ブライト500」にも選ばれました。私たちは、これらエコアクション21、健康経営優良法人の取り組みとリンクさせる形でSDGsへの取り組みを進めています。

実施体制図

改定日：平成31年12月21日



○弊社は、推進委員会を設け全社員一体となってエコアクション活動を進めています。
○各部門の部門長は、定例会議(製販会議、工程会議、安全衛生委員会)においてエコアクション活動の進捗を確認しています。
○各QCサークルのリーダーは、自サークル及びリーダー会でエコアクション活動を推進しています。

令和元年度総括と今後3ヵ年の目標設定

●環境経営目標及びその実績

○令和元年度の活動結果は管理項目全12項のうち8項目で目標達成となりました。しかし、世界的に新型コロナ感染症が蔓延し日本でも緊急事態宣言が発令され、これまでの日常生活は一変しました。弊社でも、移動自粛による客先訪問機会の減少が、ガソリン・軽油の使用量削減に影響を与えたものと思われます。新型コロナの影響で目標達成出来たと思われる項目は令和元年度の目標値のままとし、それ以外の項目は目標値は令和元年度を基準年度として新たに3か年目標を設定しました。

項目 ＼ 年度			基準年度（令和元年度）実績	令和２年度 目標	令和２年度 実績	令和3年度目標	令和4年度目標
二酸化炭素排出量削減	電力使用量の削減（kWh/百万円）		531.9	526.6	510.9	521.3	516.0
		絶対量（kWh）	544,695	539,248	509,771	533,801	528,354
		基準年度比	100%	-1.0%	-3.9%	-2.0%	-3.0%
		① kg-CO_2	173,213	171,481	162,107	169,749	168,017
	化石燃料の削減	○ガソリンの使用量削減（L）	10,397.4	11,320.5	8,555.8	11,218.8	11,114.8
		基準年度比	100%	+8.9%	-17.7%	+7.9%	+6.9%
		② kg-CO_2	24,139	26,282	19,864	26,046	25,805
		○軽油の使用量削減（L）	2,105.6	3,178.4	1,698.9	3,156.3	3,135.2
		基準年度比	100%	+50.9%	-19.3%	+49.9%	+48.9%
		③ kg-CO_2	5,526	8,341	4,458	8,283	8,228
		○灯油の使用量削減（L/日）	236.8	239.9	215.7	234.8	239.1
		絶対量（L）	20,606	20,399	20,042	20,193	20,607
		基準年度比	100%	+1.3%	-8.9%	-5.2%	-6.2%
		④ kg-CO_2	51,347	50,834	49,943	50,321	49,807
		①+②+③+④ kg-CO_2	254,225	256,938	235,372	254,399	251,857
		基準年度比	100%	+1.1%	-7.4%	-5.5%	-6.5%
排水量の削減	○水道水の使用量削減（m^3）		841	832.6	775	824.2	815.8
	基準年度比		100%	-1.0%	-7.8%	-2.0%	-3.0%
化学物質の削減	○化学物質の使用量削減（kg）		275.2	272.4	183.5	269.7	266.9
	基準年度比		100%	-1.0%	-33.3%	-2.0%	-3.0%

※各項目の評価基準について

○電力使用量は本社及び和歌山工場の使用量を合計し、売上百万円当たりで評価します。

○ガソリン使用量は本社及び和歌山工場の使用量を合計し、軽油の使用量は和歌山工場の使用量をそれぞれ絶対量で評価します。しかし、基準年度は新型コロナ感染症の影響を受けたと思われるので、令和2年度の目標値は令和元年度の目標値を再度採用します。

○灯油の使用量は、和歌山工場の12月から3月まで4ヶ月間の使用量を同4ヶ月間の就業日数当たりの使用量で評価します。年間使用量は通年の使用量とします。

○二酸化炭素排出量は、下記排出係数にて各項目の絶対量を計算し評価します。

- 電力の二酸化炭素排出係数は、関西電力様2019年度調整後排出係数0.318kg-CO2/kWhを使用し算出します。
- ガソリンの排出係数は、絶対量(L)×0.0671(kg-CO2/MJ)×34.6(MJ/L)で算出します。
- 軽油の排出係数は、絶対量(L)×0.0687(kg-CO2/MJ)×38.2(MJ/L)で算出します。
- 灯油の排出係数は、絶対量(L)×0.0679(kg-CO2/MJ)×36.7(MJ/L)で算出します。

○水道水は、本社及び和歌山工場の使用量を合計し絶対量で評価します。

○化学物質は、和歌山工場で使用している油脂洗浄剤に含まれるトルエンの使用量を指し絶対量で評価します。

○売上百万円当たり及び就業日数で評価する各項目の年間使用量は、通年の使用量とします。

★循環型社会の実現に向けて

項目	年度	基準年度（令和元年度）実績	令和２年度 目標	令和２年度 実績	令和3年度目標	令和4年度目標
廃棄物の削減	○可燃ごみの排出量削減（kg）	1,479	1,464	2,357	3,736	3,698
	基準年度比	100%	-1.0%	+59.4%	-2.0%	-3.0%
	○混合廃棄物の排出量削減（m^3）	7.5	7.4	5.1	7.35	7.28
	基準年度比	100%	-1.0%	-32.0%	-2.0%	-3.0%
	○廃プラスチックの排出量削減（%）	61.3	70.0	63.2	71.0	72.0
	絶対量：排出量（kg）	770	—	770	—	—
	絶対量：回収量（kg）	1221	—	1325	—	—
	基準年度比	100%	+14.2%	+3.1%	+15.7%	+17.4%
剰余材の有効利用	○再加工材料費の削減（金額指標）	100	40.1	41.8	40.1	40.1
	基準年度比	100%	-59.9%	-58.1%	-59.9%	-59.9%
製品への環境配慮の推進	○梱包資材の購入量削減（kg/百万円）	1.35	1.34	1.06	1.32	1.31
	絶対量（kg）	1,385	1,371	1,053	1,358	1,344
	基準年度比	100%	-1.0%	-21.5%	-2.0%	-3.0%

※各項目の評価基準について
○可燃ごみとは、和歌山工場では一般的な燃えるごみ、本社では業者に回収されているシュレッダーくずを含まない一般的な燃えるごみを指し、それぞれ合計し絶対量で評価します。
○混合廃棄物とは、和歌山工場から排出され安定型最終処分場で埋立処分される産業廃棄物を指します。これまで売上百万円当たりで評価していましたが絶対量評価に変更します。
○廃プラスチックとは、和歌山工場から排出される廃プラスチック排出量に対するリサイクル量（回収量）の比率を再利用率として評価し、年間排出量及び回収量は、通年の量とします。
○再加工材料費とは、本来なら必要としない再加工による材料費を指します。評価方法は、環境経営計画書では金額で評価していますが、環境経営レポートは基準年度比の金額指標としています
○梱包資材購入量とは、和歌山工場において梱包時に使用するエアーキャップやストレッチフィルムの購入量を指し、売上百万円当たりで評価します。年間購入量は、通年の購入量とします。

以上のように３ヶ年計画を再策定しましたが、新型コロナ感染症の世界的な蔓延により日常生活は一変しました。弊社のような完全受注生産方式では材料費の高騰や客先訪問の減少による営業活動の減少など、多少なりとも影響を受けています。
なお、最終結果が目標達成出来なかった場合は、原因を究明・把握し次年度以降の計画を見直します。

弊社では、本社と和歌山工場における設備の違いからそれぞれの目標を設定し活動しています。次ページより、各項目における本社の活動成果、和歌山工場の活動成果から事業所全体の活動成果を評価します。

令和元年度 環境経営計画の取組結果とその評価

●電力の使用量削減

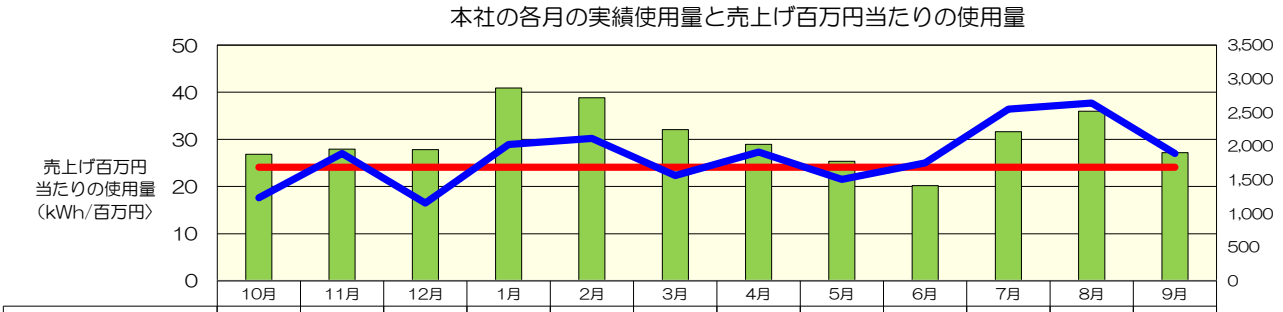
※評価基準：売上げ百万円当たりの使用量（kWh/百万円）

★環境活動計画（本社、和歌山工場共通）

1. 西日対策による夏期冷房温度の抑制
2. 空調温度の最適化推進
3. エリア別照明点灯及び場内照明の間引き点灯推進
4. 未使用パソコンの電源オフ徹底

1）本社の活動結果

今年度目標：24.1　→　今年度実績：25.5　結果：+5.8% 目標未達成!!



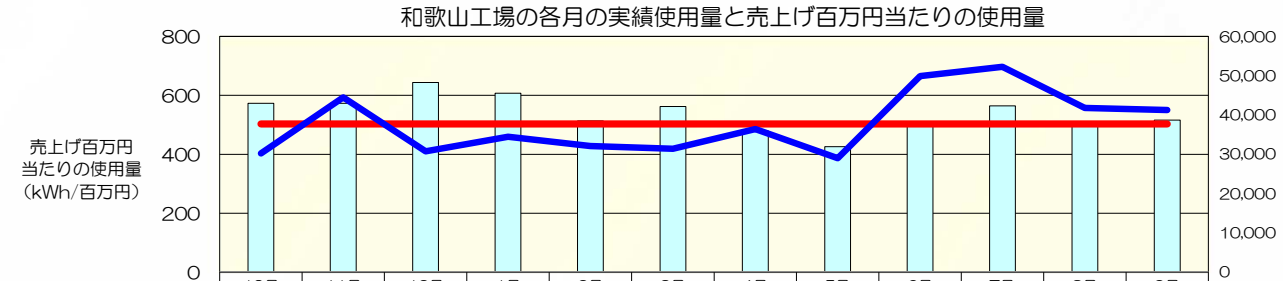
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
実績使用量(kWh)	1,879	1,954	1,948	2,863	2,717	2,245	2,025	1,774	1,413	2,214	2,517	1,901
目標値(kWh/百万円)	24.1	24.1	24.1	24.1	24.1	24.1	24.1	24.1	24.1	24.1	24.1	24.1
kWh/百万円	17.6	27.0	16.5	28.9	30.2	22.3	27.3	21.5	25.0	36.4	37.7	27.0

本社は営業拠点として主に事務的な作業をしています。実績使用量の推移をみると 4月~6月期の使用量が基準年度より4.4%削減できましたが、その他の期間で増加、特に冬期にあたる1月~3月は8.1%も増加していることが分かりました。冬場、夏場にピークがあり、このことからエアコン（冷房、暖房）の影響が大きいことがわかります。累積使用量は、基準年度より2.3%の増加となりました。評価基準の売上百万円当たりに換算した使用量は25.5と目標値に対し105.8%と増加し目標未達成となりました。

次年度、本社ではエアコンに依存しない冷暖房についてぜひご検討ください。併せて、売上確保にも努めてください。

2）和歌山工場の活動結果について

今年度目標：502.6　→　今年度実績：485.4　結果：-3.4% 目標達成!!



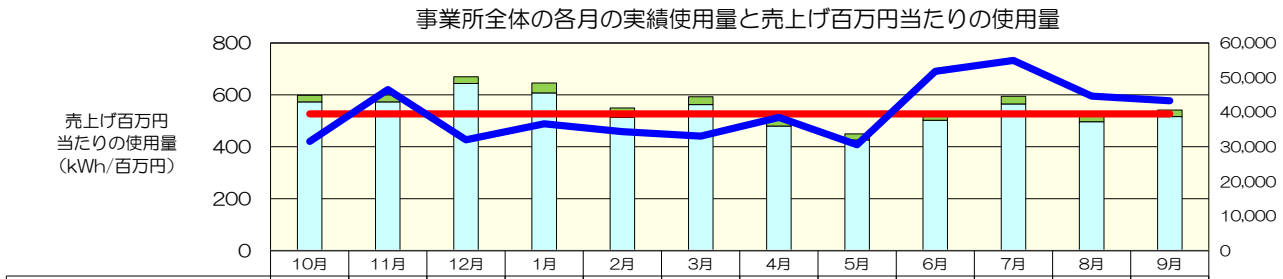
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
実績使用量(kWh)	42,969	42,980	48,292	45,542	38,508	42,173	35,968	31,951	37,648	42,347	37,245	38,698
目標値(kWh/百万円)	502.6	502.6	502.6	502.6	502.6	502.6	502.6	502.6	502.6	502.6	502.6	502.6
kWh/百万円	403.3	593.3	410.1	459.5	428.2	418.9	485.5	386.4	665.6	696.4	557.4	550.4

和歌山工場は弊社の生産拠点で、今年度3月に新設備（複合機）を導入しました。仕事量が増加すると設備の稼働時間が増加するため、電力使用量も増加します。また、夏になると、扇風機、スポットクーラー、エアコンなどを使用するため、これも使用量増加の要因となっています。今年度の累積使用量は、基準年度より6.8%も削減できており、工場内照明のLED化効果が表れています。

実績の使用量自体が少ないのは、ここに来てコロナの影響が出てきたため4月以降の受注量が低調であったことにも一因があります。それでも評価基準の売上百万円当たりに換算した使用量は、目標値に対し3.4%も削減でき目標達成出来ました。

3）事業所全体の活動結果について

今年度目標：526.6　→　今年度実績：510.9　結果：-3.0% 目標達成!!



	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
本社実績使用量(kWh)	1,879	1,954	1,948	2,863	2,717	2,245	2,025	1,774	1,413	2,214	2,517	1,901
和歌山工場実績使用量(kWh)	42,969	42,980	48,292	45,542	38,508	42,173	35,968	31,951	37,648	42,347	37,245	38,698
目標値(kWh/百万円)	526.6	526.6	526.6	526.6	526.6	526.6	526.6	526.6	526.6	526.6	526.6	526.6
kWh/百万円	420.9	620.3	426.6	488.4	458.4	441.2	512.8	407.8	690.5	732.9	595.1	577.4

事業所全体での累積使用量は、基準年度より-6.4%削減出来ました。売上百万円当たりの使用量は、今年度目標526.6kWh/百万円に対し、510.9kWh/百万円と3%削減できました。本社は目標未達成ながら工場での削減量が大きかったことが事業所全体での削減に繋がったと考えます。

今後も、本社、工場とも目標達成を目指します。

●ガソリン使用量の削減

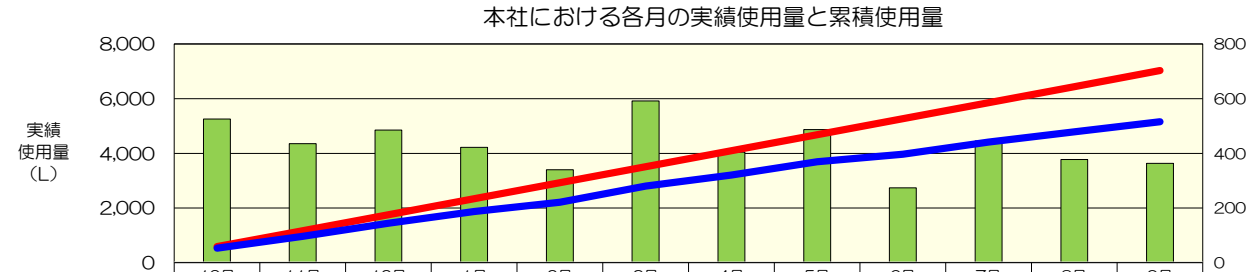
※評価基準：実績使用量（L）

★環境活動計画（本社、和歌山工場共通）

1. エコドライブの推進
2. 外出時、可能な範囲での乗合せ
3. 公共交通機関の利用促進

1）本社の活動結果について

今年度目標：7,029　→　今年度実績：5,153.1　結果：-26.7% 目標達成



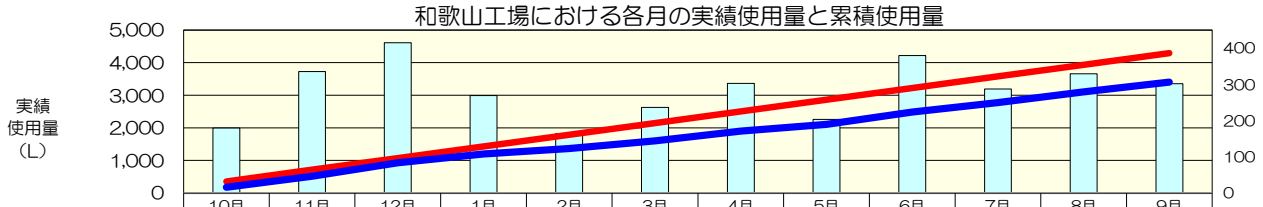
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
実績使用量(L)	525.8	435.7	485.3	422.3	340.0	591.8	404.4	487.3	274.0	445.5	377.3	363.7
目標値(L)	585.8	1,171.5	1,757.3	2,343.0	2,928.8	3,514.5	4,100.3	4,686.0	5,271.8	5,857.5	6,443.3	7,029.0
累積使用量(L)	525.8	961.5	1,446.8	1,869.1	2,209.1	2,800.9	3,205.3	3,692.6	3,966.5	4,412.1	4,789.4	5,153.1

今年度の目標値は、令和元年度が新型コロナの影響を受けたと考えたので令和元年度の目標値を再度採用しました。本社は、営業活動において可能な範囲で公共交通機関を利用するよう推進していますが、今年度も新型コロナの蔓延により緊急事態宣言が発令され、工場への行き来、客先訪問がままならない中、累積使用量は目標値より26.7%削減でき目標達成出来ました。目標達成できた要因は、リモートを活用したことで社用車の使用機会が減りガソリン使用量の削減に繋がったと考えます。

しかし、新型コロナ感染症の影響は否定できません。次年度の目標はこの点を考慮する必要はあると考えますが、それでも定着してきたリモート会議の活用などは引き続き推進していきます。

2）和歌山工場の活動結果について

今年度目標：4,292　→　今年度実績：3,403　結果：-20.7% 目標達成!!

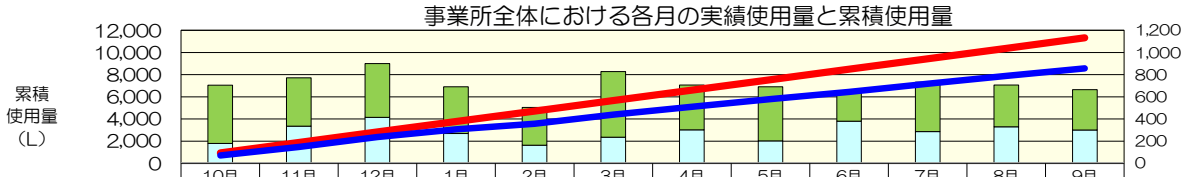


	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
実績使用量(L)	179.5	335.1	414.9	269.0	164.1	236.5	302.7	203.4	379.6	287.0	329.3	301.6
目標値(L)	357.6	715.2	1,072.9	1,430.5	1,788.1	2,145.7	2,503.3	2,861.0	3,218.6	3,576.2	3,933.8	4,291.4
累積使用量(L)	179.5	514.6	929.5	1,198.5	1,362.6	1,599.1	1,901.8	2,105.2	2,484.8	2,771.8	3,101.1	3,402.7

和歌山工場は、和歌山県のほぼ中央にありその立地条件から最寄りの駅や高速道路までの利便性が悪く、客先訪問や出張時は社用車を利用しなければなりません。今年度の累積使用量は新型コロナの影響で出張が抑制されているためか大幅に抑えられており、目標値よりも20.7%削減でき目標達成できました。しかし、新型コロナ感染症の影響は否定できません。次年度の目標はこの点を考慮する必要はあると考えます。

3）事業所全体の活動結果について

今年度目標：11,321　→　今年度実績：8,555.8　結果：-24.4% 目標達成!!



	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
本社の実績使用量(L)	525.8	435.7	485.3	422.3	340.0	591.8	404.4	487.3	274.0	445.5	377.3	363.7
和歌山工場のの実績使用量(L)	179.5	335.1	414.9	269.0	164.1	236.5	302.7	203.4	379.6	287.0	329.3	301.6
目標値(L)	943	1,887	2,830	3,774	4,717	5,660	6,604	7,547	8,490	9,434	10,377	11,321
累積使用量(L)	705.3	1,476.1	2,376.3	3,067.6	3,571.7	4,400.0	5,107.1	5,797.8	6,451.3	7,183.9	7,890.5	8,555.8

事業所全体での累積使用量は目標値より、24.2%削減でき目標達成となりました。
引き続き、本社、工場で挙げた各課題に対応し目標達成を目指します。

●軽油の使用量の削減

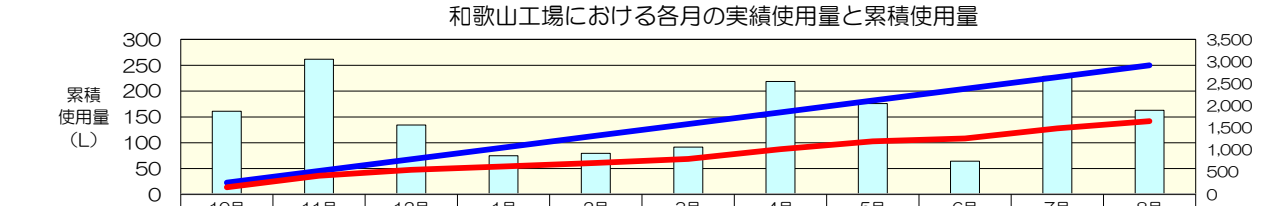
※評価基準：実績使用量（L）

★環境活動計画（和歌山工場のみ）

1．エコドライブの推進

1）和歌山工場の活動結果について

今年度目標：3,178.4　→　今年度実績：1,698.9　結果：-46.5% 目標達成



	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
実績使用量(L)	160.9	261.8	134.4	75.0	79.6	91.6	218.6	176.0	64.5	228.4	163.0
目標値(L)	264.9	529.7	794.6	1,059.5	1,324.3	1,589.2	1,854.0	2,118.9	2,383.8	2,648.6	2,913.5
累積使用量(L)	160.9	422.7	557.1	632.1	711.7	803.3	1,021.9	1,197.9	1,262.4	1,490.8	1,653.8

今年度の目標値は、令和元年度が新型コロナの影響を受けたと考えたので令和元年度の目標値を再度採用しました。ガソリンの項目でも述べましたが、新型コロナによる緊急事態宣言が発令され現地出張や社用車で製品を納品する機会が減少したため、今年度の累積使用量は目標値より46.5%も削減でき目標達成となりました。次年度の目標は新型コロナを考慮し再設定します。

●灯油の使用量の削減

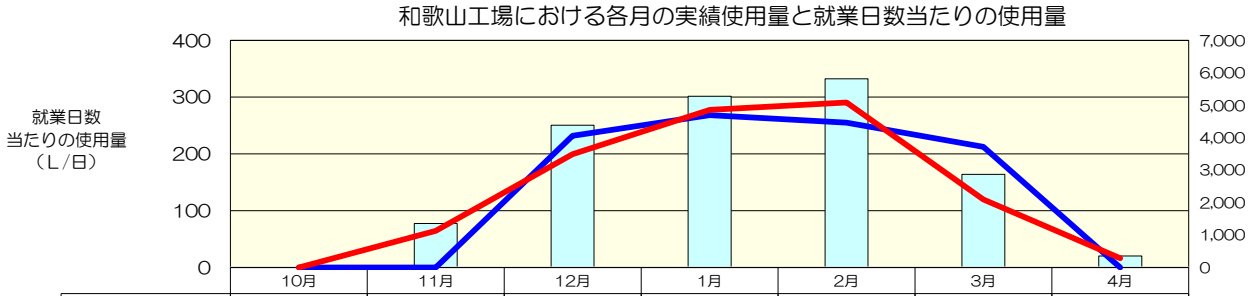
※評価基準：実績使用量（L/日）

★環境活動計画（和歌山工場のみ）

1．石油ストーブの使用基準の徹底

1）和歌山工場の活動結果について

今年度目標：239.9　→　今年度実績：215.7　結果：-10.1% 目標達成



	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月
実績使用量(L)	0.0	1,352.0	4,384.3	5,273.9	5,812.7	2,866.9	352.0
目標値(L)	0.0	0.0	231.8	268.4	255.0	212.5	0.0
L/日	0.0	64.4	199.3	277.6	290.6	119.5	16.0

弊社では、和歌山工場で冬期に使用する暖房機器の燃料として灯油を使用しています。例年、暖房機器の使用開始日は11月の下旬ですが、今期は寒くなるのが早く11月12日から開始し使用量の増加を予想しました。今冬は2年ぶりに雪が積もり寒くなりましたが、桜の開花が全国的に早くなるなど3月の気候が暖かったことで、累積使用量は基準年度より2.7%削減出来ました。

評価基準の12月から3月の就業日数当たりの使用量は、今年度の目標値に対して10.1%削減出来、目標達成出来ました。

●二酸化炭素排出量の削減

※評価基準：実績排出量（kg-CO2）

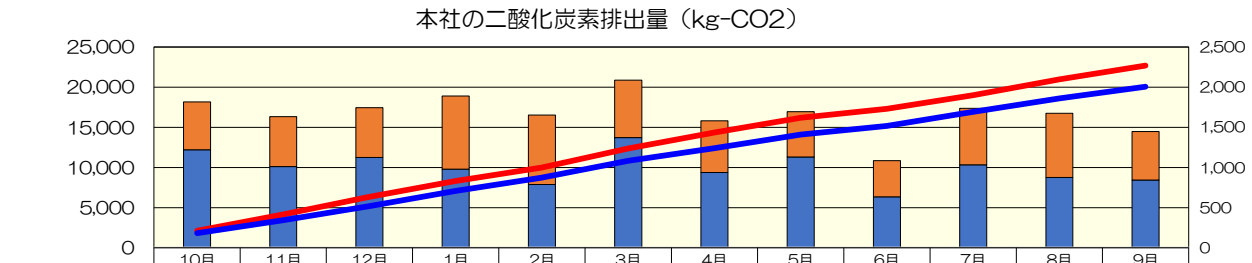
★環境活動計画（本社・和歌山工場共通）

1．電力使用量の削減

2．化石燃料の使用量を削減

1）本社の活動結果について

今年度目標：22,686.4　→　今年度実績：20,056.8　結果：-11.6% 目標達成

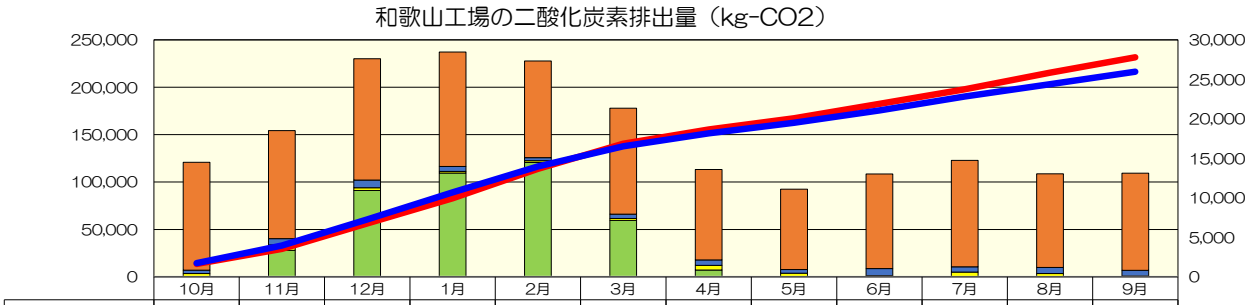


	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
電力	597.5	621.4	619.5	910.4	864.0	713.9	644.0	564.1	449.3	704.1	800.4	604.5
ガソリン	1,220.8	1,011.6	1,126.7	980.5	789.3	1,373.8	938.9	1,131.3	636.0	1,034.4	876.0	844.3
目標値	2,129.3	4,170.0	6,351.7	8,334.8	9,996.2	12,371.2	14,371.5	16,199.1	17,320.8	19,003.6	20,976.6	22,686.4
累積排出量	1,818.3	3,451.3	5,197.5	7,088.3	8,741.7	10,829.4	12,412.3	14,107.8	15,193.1	16,931.5	18,608.0	20,056.8

本社では、電力及びガソリンの使用量により二酸化炭素を排出しています。今年度の各項目の累積使用量は、それぞれの目標値に対し電力使用量は105.8%と増加しましたが、ガソリン使用量で26.7%も削減出来ました。このことから本社の累積排出量は目標値に対し11.6%も削減でき目標達成しました。

2）和歌山工場の活動結果について

今年度目標：231,538.2　→　今年度実績：216,315.2　結果：-6.6% 目標達成!!

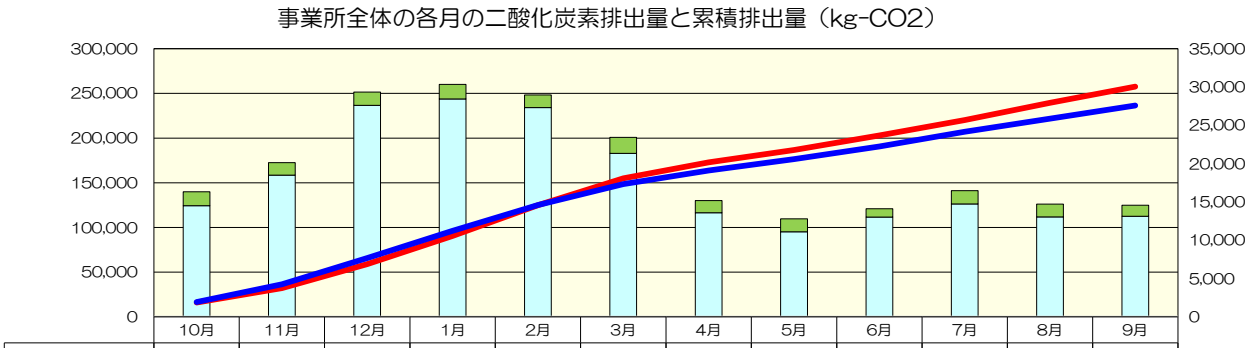


	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
電力	13,664.	13,667.	15,356.	14,482.	12,245.	13,411.	11,437.	10,160.	11,972.	13,466.	11,843.	12,306.
ガソリン	416.7	778.0	963.3	624.5	381.0	549.1	702.8	472.2	881.3	666.3	764.5	700.2
軽油	422.3	687.1	352.7	196.8	208.9	240.4	573.7	461.9	169.3	599.4	427.8	118.4
灯油	0.0	3,369.1	10,925.	13,142.	14,484.	7,144.1	877.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
目標値	13,652.	29,551.	56,408.	82,920.	113,849	140,305	155,436	167,258	182,338	197,825	215,238	231,538
累積排出量	14,503.	33,004.	60,603.	89,049.	116,369	137,713	151,305	162,399	175,422	190,154	203,190	216,315

和歌山工場では、電力、ガソリン、軽油、灯油の使用量により二酸化炭素を排出しています。今年度の各項目の累積使用量は、それぞれの目標値に対し電力使用量は5.9%、ガソリン使用量は20.7%、軽油使用量は46.5%、灯油使用量は1.8%とそれぞれ削減出来ました。このことから、工場の累積排出量は目標値に対し6.6%削減出来、目標達成出来ました。

3）事業所全体の活動結果について

今年度目標：257,497.7　→　今年度実績：236,372.1　結果：-8.2% 目標達成!!



	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
本社	1,818.3	1,633.0	1,746.1	1,890.9	1,653.3	2,087.8	1,582.9	1,695.5	1,085.4	1,738.4	1,676.4	1,448.9
和歌山工場	14,503.	18,501.	27,598.	28,445.	27,320.	21,344.	13,591.	11,094.	13,022.	14,732.	13,036.	13,124.
目標値	15,782.	32,031.	58,897.	90,497.	124,853	154,970	172,931	186,730	202,931	220,101	239,487	257,497
累積排出量	16,321.	36,456.	65,800.	96,137.	125,111	148,543	163,717	176,507	190,615	207,086	221,798	236,372

本社、和歌山工場の排出量を合計した事業所全体の累積排出量は、目標値に対し8.2%削減でき目標達成となりました。しかし、緊急事態宣言が発令された時期は、出張機会が大幅に制限されたことによりガソリンや軽油といった化石燃料が削減出来ましたが、本社ではエアコンの使用頻度が高まったことにより電力使用量が増加しました。目標達成できたといっても、新型コロナの影響は無視出来ません。

また、和歌山工場では冬期限定で灯油の使用量が発生します。地球温暖化が叫ばれていますがどうしても冬は寒く作業環境を整えるために灯油を燃料とする暖房機器の使用は欠かせません。

今後の新型コロナ感染症の動向は計り知れませんが、次年度の目標設定はこの点を考慮して検討する必要があると思います。しかし、この新型コロナのおかげで社内のリモート活用が進んだのは確かです。今後も、社内外でリモートの活用は増えていくと思われるので、各自、使用方法を習熟して下さい。

●水道水の使用量削減

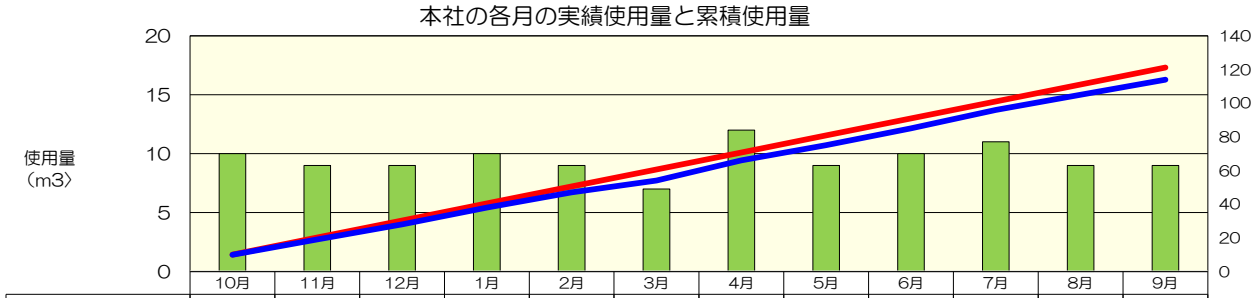
※評価基準：実績使用量（m³）

★環境活動計画（本社・和歌山工場共通）

1．節水の呼びかけ

1）本社の活動結果について

今年度目標：121..8　→　今年度実績：114.0　結果：-6.4% 目標達成!!

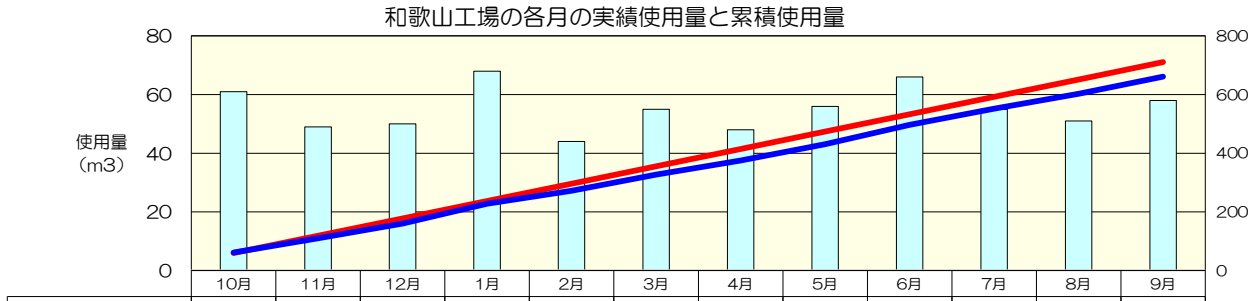


	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
実績使用量(m3)	10	9	9	10	9	7	12	9	10	11	9	9
目標値(m3)	10	20	30	40	51	61	71	81	91	101	111	121
累積使用量(m3)	10	19	28	38	47	54	66	75	85	96	105	114

本社での水使用はほぼ生活用水なので、大幅な低減は難しいと思いますがこまめな節水を推進しています。今年度の累積使用量は、目標値に対し6.4%削減でき目標達成しました。

2）和歌山工場の活動結果について

今年度目標：711　→　今年度実績：661　結果：-7.0% 目標達成!!



	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
実績使用量(m3)	61	49	50	68	44	55	48	56	66	55	51	58
目標値(m3)	59	118	178	237	296	355	415	474	533	592	652	711
累積使用量(m3)	61	110	160	228	272	327	375	431	497	552	603	661

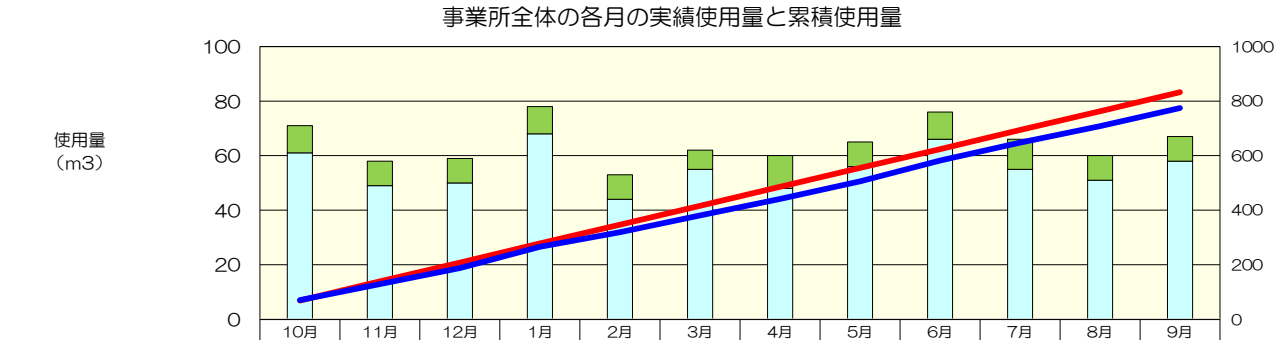
和歌山工場では、生活用水として従業員の皆さんが休憩時間や作業の合間に飲めるよう通年通してお茶を沸かして提供しています。このお茶は夏になれば沸かす回数が多くなり、必然的に使用量が多くなるのですが、8月はあまり暑くならなかったのでお茶を沸かす回数が減りエコアクション活動開始以来最小の使用量となりました。また、工場では受注した仕事内容により部材の洗浄工程や水漏れ検査を実施する場合があります。水漏れ検査時において水を何度も使用する場合は、下記写真のような小型ポンプを活用して再利用しています。今年度の累積使用量は、目標値に対し7.0%削減でき目標達成出来ました。

検査時は注入します。

検査後は回収します。

3）事業所全体の活動結果について

今年度目標：833　→　今年度実績：775　結果：-7.0% 目標達成!!



	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
本社実績使用量(m3)	10	9	9	10	9	7	12	9	10	11	9	9
和歌山工場実績使用量(m3)	61	49	50	68	44	55	48	56	66	55	51	58
目標値(m3)	69	139	208	278	347	416	486	555	624	694	763	833
累積使用量(m3)	71	129	188	266	319	381	441	506	582	648	708	775

今年度の累積使用量は、本社では主に生活用水として使用していますが、節水に対する意識向上が浸透し目標達成、和歌山工場でも仕事の受注内容や季節に左右されたと推測しても目標達成することが出来ました。その為、事業所全体でも、目標値に対し7.0%削減でき目標達成しました。

●化学物質の使用量削減

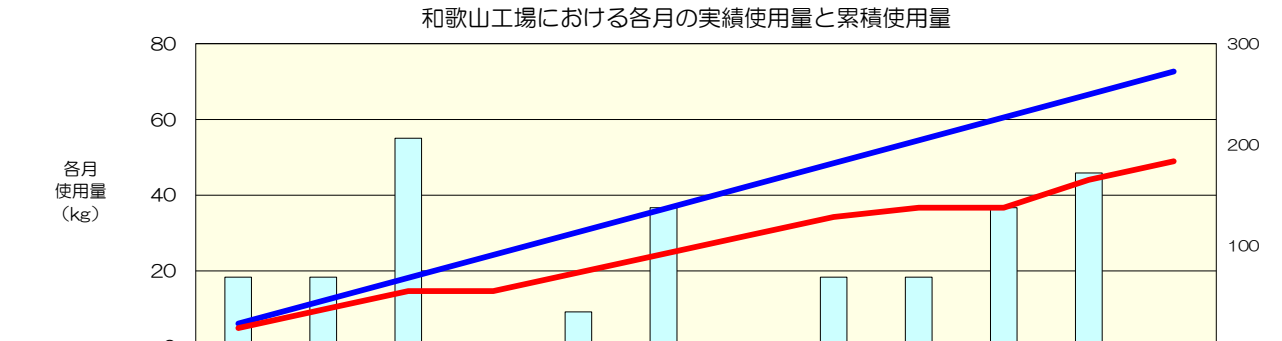
※評価基準：実績使用量（kg）

★環境活動計画（和歌山工場のみ）

1. 代替材の使用量拡大
2. 化学物質の適正管理
3. 化学物質を大量使用する場合の使用ルール決定

1）和歌山工場の活動結果について

今年度目標：272.4　→　今年度実績：183.5　結果：-32.6% 目標達成!!



	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
実績使用量(kg)	18.4	18.4	55.0	0.0	9.2	36.7	0.0	18.4	18.4	36.7	45.9	0.0
目標値(kg)	22.7	45.4	68.1	90.8	113.5	136.2	158.9	181.6	204.3	227.0	249.7	272.4
累積使用量(kg)	18.4	36.7	55.1	55.1	73.4	91.8	110.1	128.5	137.6	137.6	165.1	183.5

弊社で使用している化学物質とは、和歌山工場において使用する油脂洗浄剤に含まれている化学物質を指します。板金工程で部材に付着した油脂は、溶接時は施工方法に悪影響を与え、製品出荷時は汚れの原因となるため洗浄剤での拭き取りが必須となります。製作工程において、洗浄剤の使用方法の改善提案が出され洗浄剤の有効活用が実践されたことで使用量の削減に繋がりました。

今年度の累積使用量は、目標値に対し32.6%削減でき目標達成しました。

●可燃ごみの排出量削減

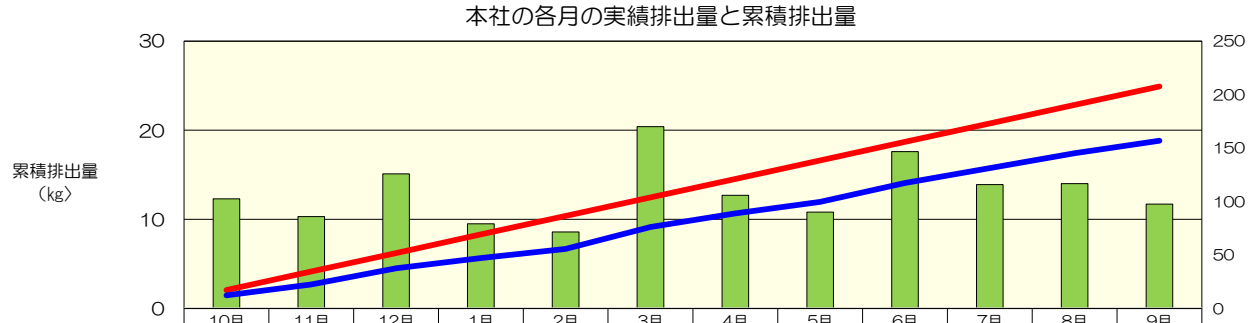
※評価基準：実績排出量（kg）

★環境活動計画（本社・和歌山工場共通）

1. 分別回収の徹底
2. 1枚ベスト運動の推進
3. LAN有効活用による紙文書の削減

1）本社の活動結果について

今年度目標：207.2　→　今年度実績：156.9　結果：-24.3% 目標達成

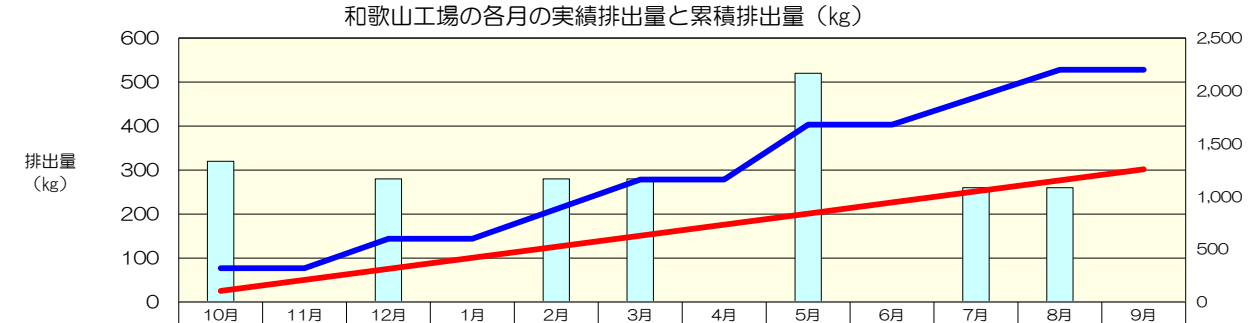


	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
実績排出量(kg)	12.3	10.3	15.1	9.5	8.6	20.4	12.7	10.8	17.6	13.9	14	11.7
目標値(kg)	17.3	34.6	51.9	69.2	86.5	103.8	121.1	138.4	155.7	173.0	190.3	207.6
累積排出量(kg)	12.3	22.6	37.7	47.2	55.8	76.2	88.9	99.7	117.3	131.2	145.2	156.9

本社では、営業の拠点として主に事務的な作業をしているため書類等の紙ごみが発生します。この紙ごみは、すべてシュレッダーを通すためシュレッダーごみとして大阪市条例により業者に回収されています。その他について排出していますが、今年度の累積排出量は、目標値に対し24.3%削減でき目標達成しました。達成の要因は、裏紙の使用が浸透してきた成果と推測します。引き続きミスコピー防止、資料のペーパーレス化などを推進します。

2）和歌山工場の活動結果について

今年度目標：1,257　→　今年度実績：2,200　結果：+75.0% 目標未達成!!



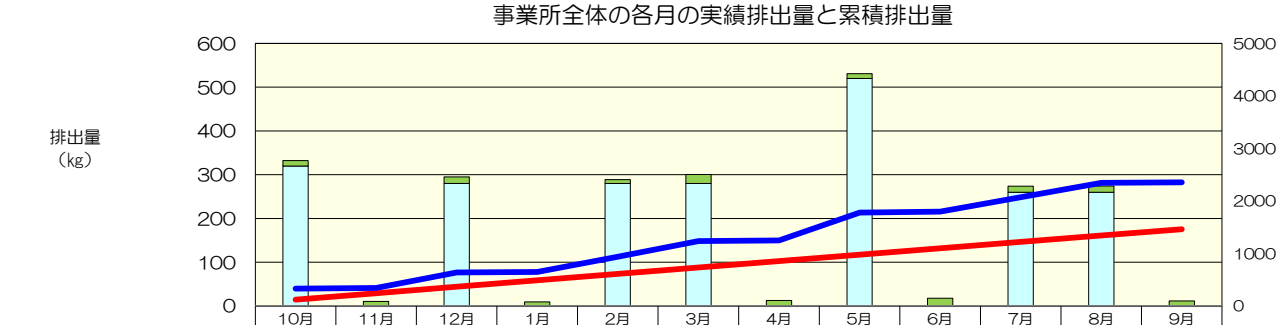
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
実績排出量(kg)	320	0	280	0	280	280	0	520	0	260	260	0
目標値(kg)	105	210	314	419	524	629	733	838	943	1,048	1,153	1,257
累積排出量(kg)	320	320	600	600	880	1,160	1,160	1,680	1,680	1,940	2,200	2,200

和歌山工場から排出するシュレッダーごみは、今年度から段ボールやハトロン紙と呼ばれる板材購入時の包装紙と同様に月1度業者様に回収していただきリサイクルされることになりました。しかし、スキット（※購入した板材を載せる木製パレット）の業者様の回収頻度が少なくなったことを受け、場内の美観を維持するため廃棄処分せざるをえず、その結果、今年度の累積排出量は目標値に対し75%も増加してしまい目標達成出来ませんでした。

今後は、この木製パレットの再利用方法を考えて削減に努めます。

3）事業所全体の活動結果について

今年度目標：1,464　→　今年度実績：2,356.9　結果：+61% 目標未達成!!



	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
本社実績排出量(kg)	12.3	10.3	15.1	9.5	8.6	20.4	12.7	10.8	17.6	13.9	14	11.7
和歌山工場実績排出量(kg)	320.0	0.0	280.0	0.0	280.0	280.0	0.0	520.0	0.0	260.0	260.0	0.0
目標値(kg)	122	244	366	488	610	732	854	976	1,098	1,220	1,342	1,464
累積排出量(kg)	332	343	638	647	936	1,236	1,249	1,780	1,797	2,071	2,345	2,357

本社では目標達成出来ましたが和歌山工場では目標値より大幅に増加した結果、事業所全体の累積排出量は、目標値に対し61%も増加する結果となりました。次年度は、和歌山工場での木製パレットの処分について再利用出来ないか検討し排出量削減に努めます。

●混合廃棄物の排出量削減

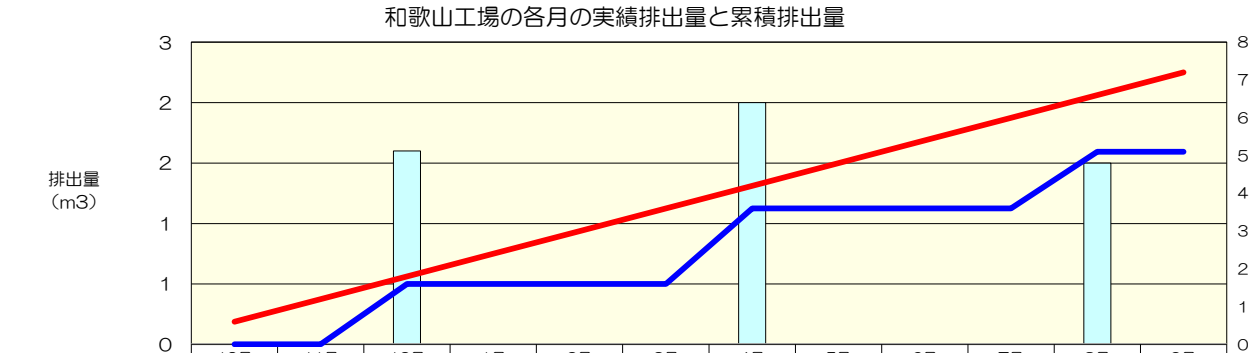
※評価基準：実績排出量（m3）

★環境活動計画（和歌山工場のみ）

1. ３Rの推進
2. 分別の徹底
3. サンダーディスクの長寿命化

1）和歌山工場の活動結果について

今年度目標：7.4　→　今年度実績：5.1　結果：-31.1% 目標達成!!



	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
実績排出量(m3)	0	0	1.6	0	0	0	2.0	0	0	0	1.5	0.0
目標値(m3)	0.6	1.2	1.8	2.4	3.0	3.6	4.2	4.8	5.4	6.0	6.6	7.2
累積排出量(m3)	0	0	1.6	1.6	1.6	1.6	3.6	3.6	3.6	3.6	5.1	5.1

今年度も排出時に内容確認し適切に仕分けられているか検討しましたが、8月の排出時において溶接機の冷却装置が廃棄されていました。溶接機の本体部品については業者さんが回収してくれる場合があるので、廃棄する場合はまず製缶部長に連絡することを全体朝礼で改めてお願いしました。

今年度の累積排出量は、目標値に対し31.1%削減でき目標達成しました。

●廃プラスチックの排出量削減

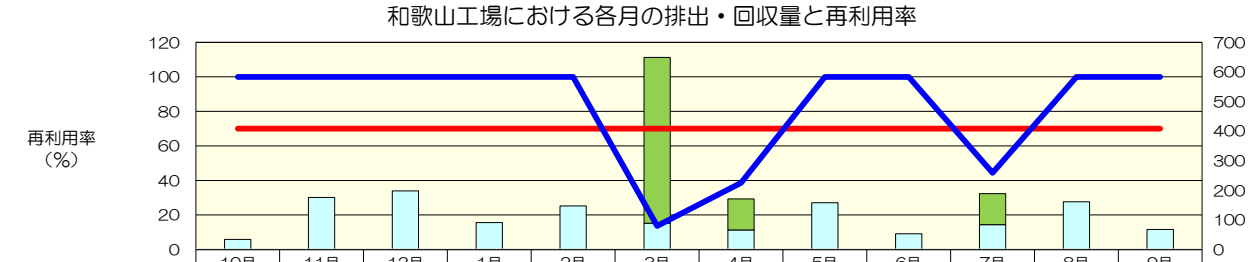
※評価基準：再利用率（%）

★環境活動計画（和歌山工場のみ）

1. 保護ﾃｰﾌﾟ以外の傷防止策による使用量削減
2. 傷防止策の構築

1）和歌山工場の活動結果について

今年度目標：70.0　→　今年度実績：63.2　結果：目標未達成



	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
廃プラ排出量(kg)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	560.0	105.0	0.0	0.0	105.0	0.0	0.0
廃プラ回収量(kg)	34	176	198	91	147	89	66.0	158.0	53.0	84.0	161.0	68.0
目標値(%)	70	70	70	70	70	70	70	70	70	70	70	70
再利用率（%）	100	100	100	100	100	13.7	38.6	100	100	44.4	100	100

昨年度より、和歌山工場から排出された溶接ワイヤのスプールについて回収業者を探していますが見つかっていないため、今年度も溶接ﾜｲﾔの排出が発生しました。リサイクルされるための回収量は基準年度より増加しましたが、今年度の再利用率は目標値を下回り目標未達成となりました。

引続き、溶接ワイヤのリサイクル可能な業者を見つけ再利用率の向上に努めます。

●再加工材料費の削減

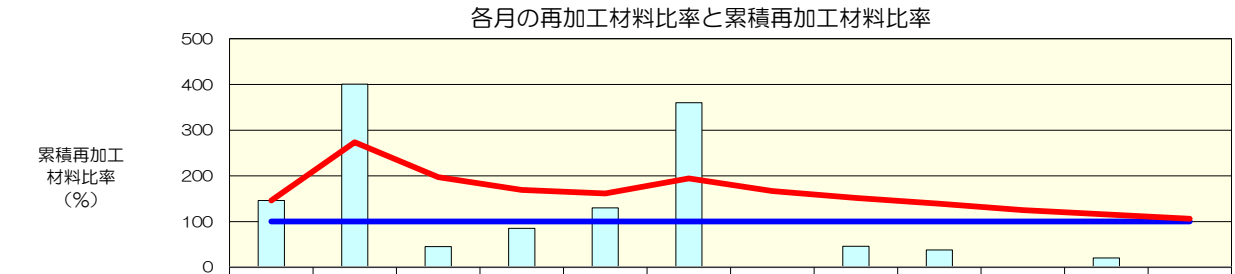
※評価基準：金額指標（%）

★環境活動計画（本社・和歌山工場共通）

1. 素材の歩留まり向上
2. 加工ミスによる素材損出の削減

1）和歌山工場の活動結果について

今年度目標：100　→　今年度実績：106.0　結果：6.0ポイント悪化 目標未達成



	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
再加工材料比率(%)	146.2	400.7	45.3	85.2	130.0	360.1	0.0	46.1	37.8	0.0	20.6	0.0
目標値(%)	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
累積再加工材料比率(%)	146.2	273.4	197.4	169.3	161.5	194.6	166.8	151.7	139.0	125.1	115.6	106.0

弊社では、品質保証室の指導の下自主検査の徹底と、過去に発生した不具合事例などの情報を共有し不良発生の防止と再加工材料費の削減対策を実践しています。昨年度、金額指標１００%に対して149.3ポイントの悪化でしたが、今年度は6ポイントの悪化と目標値を下回ることができず、目標未達成となりましたが昨年度より再加工材料費の抑制に成功しました。今年度は員数全てが不良となる全数アウト件数が削減できており、初品検査等の成果は現れてきていると推測します。

●梱包資材の購入量削減

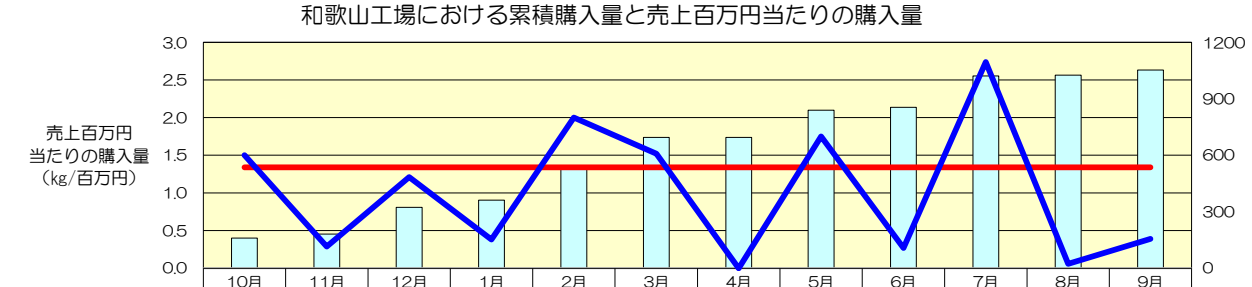
※評価基準：売上百万円当たりの排出量（kg/百万円）

★環境活動計画（和歌山工場のみ）

1. 外注先搬送時への通い台車の利用促進
2. 梱包の簡素化による使用量低減
3. 梱包資材のリユース促進

１）和歌山工場の活動結果について

今年度目標：1.34　→　今年度実績：1.06　結果：-20.9% 目標達成!!



	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
累積購入量(kg)	159.9	180.9	323.2	361.2	541.5	694.5	694.5	839.3	854.4	1021.0	1025.2	1052.7
目標値(kg/百万円)	1.34	1.34	1.34	1.34	1.34	1.34	1.34	1.34	1.34	1.34	1.34	1.34
kg/百万円	1.50	0.29	1.21	0.38	2.00	1.52	0.00	1.75	0.27	2.74	0.06	0.39

和歌山工場において梱包時に使用するエアーキャップやストレッチフィルムの購入量は仕事の受注内容により増減します。今年度は、受注量が減少したことと二重梱包などの大型物件が少なかったため、累積購入量は基準年度より24%削減出来ました。評価基準である売上百万円当たりの購入量は20.9%削減でき、目標達成出来ました。

健康経営優良法人の取組み

●ウォーキングイベントに参加しました。

東京オリンピック開催と共に弊社では7月23日から8月8日までの1Day3000歩という企画に参加しました。1Day3000歩はウォーキングイベントarukuto&で開催されているイベントで、アプリをインストールし17日間毎日頑張って3000歩歩きましょうという企画です。3000歩ぐらい余裕だと思いましたが休みの日になるとなかなか3000歩に届かず、とても苦戦しました。

企業ランキング結果が発表され、受賞企業上位１位～３１位までと設定されていましたが、弊社はなんと30位で入賞しました。

SDGsの取組み

●弊社のホームページでSDGsへの取り組みを紹介しています。

弊社は、SDGsに対する様々な取り組みや進め方をホームページで紹介しています。一度、ぜひご覧ください。

社員教育の実施及びエコ活動

●エコアクション活動の中間報告と結果報告を実施しました。

弊社では、毎年11月にエコアクション活動の前年度結果報告と今年度目標の報告を、5月に中間報告を、QC活動報告会と併せて実施しています。11月に開催された第36回報告会は、工場近隣の「しみず会館」にて実施しましたが、5月の第37回報告会は新型コロナ感染症の影響を鑑みリモート開催となったため、同日報告予定だった中間報告の資料は、本社では掲示、和歌山工場では毎月回覧している管理項目グラフと一緒に回覧し従業員の皆様に周知しました。

＜第36回報告会＞

＜第37回報告会＞

●SDGsバッジを着用しています。

11月より、本社の営業、和歌山工場では部長以上及び出張機会が多い従業員の方々に、SDGsバッジを胸ポケットにつけるよう推進しています。バッジをつけることで「私の勤めている会社ではSDGｓに積極的に取組んでいます」ということをアピールできると考えました。

●図面の見方勉強会（初級編）を開催しました。

7月7日、品質保証室の平林リーダーを先生に、図面の見方勉強会を開催し、図面で示された上方向、横方向、断面を、実際の製品と見比べました。また、図面寸法と実物寸法の確認では、寸法の測定方法や、ノギスの使い方、計りにくい所の測定方法としてスケールと直尺を組合せた測定方法についても指導がありました。是非、製品の自主検査に役立て下さい。

●和歌山工場にて緊急事態避難訓練を実施しました。

10月28日、和歌山工場にて火災発生を想定した緊急事態訓練を実施しました。午後1時過ぎ、火災報知機を鳴らし火災訓練が開始されると、全従業員が避難場所と指定している事務所前の駐車場に集合しました。

当日、御指導頂いた地域消防署の担当者様から「緊急事態の避難訓練はいざという時に、慌てず落着いて行動できるように実施するものです。日頃から火災予防の意識を持っていて下さい。」と参加した従業員にお言葉を頂きました。全体訓練の後には、消防署指導のもと、消火器（練習用）の使用訓練も実施しました。

＜初期消火へ向う＞

＜消火器訓練＞

情報発信ツールの開設

●facebookを開設しました。

5月16日、弊社のfacebookを開設しました。製品の紹介や作業風景などを随時更新していきます。

●ホームページにオリジナル製品のページを開設しました。

8月18日、弊社のホームページにオリジナル製品のページを開設しました。これで、ホームページからも弊社のオリジナル製品を購入頂けるので、今後はオリジナル商品の開発にも着手します。

●ZOOMによる会社説明会に参加しました。

5月18日、新型コロナウィルスの蔓延により、企業説明会の開催が中止されています。そんな中、社長が本社からZOOMによる会社説明会に参加し、弊社の魅力をアピールしました。

地域社会への取組み その1

●環境コミュニケーション大賞優良賞を受賞しました。

令和2年2月18日、第24回環境コミュニケーション大賞の審査結果が発表され、弊社は環境経営レポート部門で優良賞に選ばれました。同賞受賞は3回目となります。今回は特にSDGsへの取組、地域とのつながりを評価頂きました。これからも受賞企業の名に恥じぬよう、持続可能な社会の実現に向け活動を進めていきます。

表彰式は、本社で社長が参加しました。

賞状

環境経営レポート部門
優良賞

株式会社坂口製作所殿

あなたは第二十四回「環境コミュニケーション大賞」において頭書のとおり優秀な成績をおさめられましたのでこれを賞します

令和三年二月十七日

第二十四回環境コミュニケーション大賞
審査委員長 八木裕之

●環境人づくり企業大賞2020、環境大臣賞受賞受賞しました。

環境人づくり企業大賞2020、中小企業区分の社内協働部門で環境大臣賞を受賞しました。弊社の本業であるリサイクル性の高いアルミ・ステンレスの加工を、経費削減及び品質向上に関連づいた形で環境活動を行っていることや工場見学やしごと探偵団など子供たちへの取組など地域交流活動が評価されました。

表彰状

環境大臣賞

株式会社坂口製作所殿

貴社の取組は「環境人づくり企業大賞2020」において全社参加型の取組として特に優れた取組であると認められました

よってここにその栄誉をたたえ表彰いたします

令和三年三月二十二日

環境大臣 小泉進次郎

環境大臣賞受賞の受賞報告を有田川町長へ報告させて頂きました。訪問時の様子は、地域テレビ局のテレビ和歌山の当日のニュースで取上げて頂き放映されました。下記写真は、放映時の様子です。

地域社会への取組み その2

●地域の高校での溶接講習を開催しました。

11月8日、有田市にある箕島高校で柴田部長が講師として溶接指導をしました。皆さん真剣に溶接に取り組んでいます。溶接実習では、毎年朝礼台を作成し近くの学校に寄付をしているそうです。

●インターンシップの受入れ

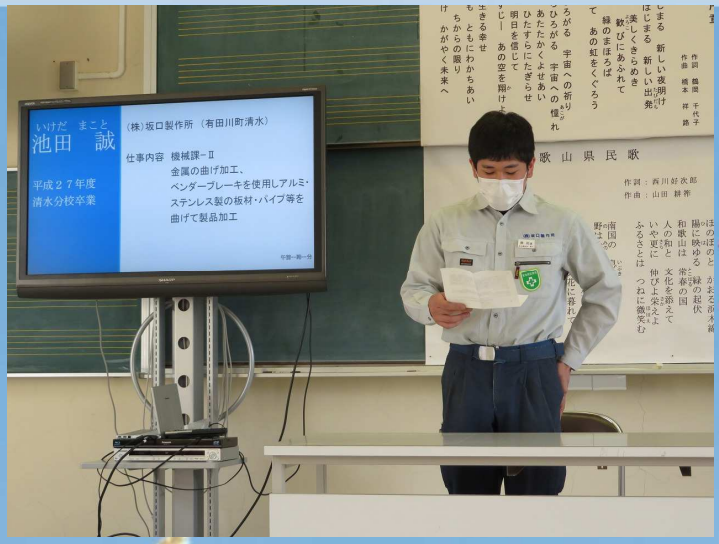
令和3年1月27日から29日までの3日間、和歌山工業高校の生徒さん5名が和歌山工場にインターンシップに来てくれました。初日に工場の概要を説明し工場見学をした後、3班に分かれ作業に入りました。小型FFUのモーター配線編み・面取りユニットの組立・NC作業・3DのCAD操作など、色々な作業を体験してもらいました。

また、溶接体験も行いそれぞれサイコロを作成して頂きました。少しでも、もの作りの楽しさが分かってもらえれば嬉しいです。最終日には、ネームプレートをお土産に渡しました。

3日間の感想では、従業員の明さんが本当に優しくて嬉しかったです。と言って下さった生徒さんもいました。この体験を学校でも話してもらい、来年のインターンシップに繋がる事を期待しています。

●有田中央高校清水分校での講演。

6月11日、有田中央高等学校清水分校にて、弊社の池田くんが講演を行いました。全校生徒6名(当日1名欠席)に向けて、進路選択や就職に関する意識を高め将来への展望を　持って進路決定ができる参考になる様にと、卒業生自身の体験を語る企画で弊社の池田くんと同級生で中紀環境化学へ勤務されている方が講演しました。来年の卒業生は進学を希望されているそうですが、今後に繋がればと思います。



●地元の小学生の工場見学

6月17日、地元にある八幡小学校の3年生13名と安諦小学校の3年生1名、引率の先生4名が工場見学に来てくれました。最初に担任の先生から「子供達はこの日をすごく楽しみに工場に来ました。」と話された通り工場に到着した時から子供達はすごく嬉しそうで元気いっぱいでした。

工場見学が終わってから。生徒さんからの沢山の質問に工場長が答えましたが、複合機を「どうやって工場まで運んだのか」「どうやって工場の中に入れたのか」と気になった生徒さんが多かったように思いました。今回もお土産に名前入りのキーホルダーをプレゼントし喜んで頂けました。

地域社会への取組み その3

●エコキャップ運動に取り組んでいます。

12月23日、QCサークル「インスペクト」の活動で回収したエコキャップを有田川町社会福祉協議会清水事務所に提出しました。

弊社のエコキャップ活動を、社会福祉協議会様が発行されている広報に掲載していただけたことをきっかけに、従業員の家族様のみならず、地域の皆様からもキャップを提供いただく機会が増えました。皆様の多大なご協力のおかげで昨年とほぼ同じ１万5,639個も集めることが出来ました。
ありがとうございました。

●保育園にひな人形を寄贈しました。

7月30日、会長の奥さんが作られたひな人形を、大阪府中小企業家同友会会員の令和保育園に提供しました。子供たちにとても喜んで頂けたと伺っています。

写真は保育園で展示している様子です。

●エコアクション21に関して感謝状を頂きました。

8月18日、環境省大臣官房環境経済課長様、エコアクション21中央事務局様から感謝状を頂きました。

感謝状

株式会社 坂口製作所 様

貴組織は長年にわたり環境省が
策定したエコアクション21により
環境経営に取り組まれました
よってここに感謝の意を表します

二〇二一年度

一般財団法人持続性推進機構
エコアクション21中央事務局
理事長 森本 英香

エコアクション21

地域社会への取組み その4

●弊社の活動が掲載されました。

2月1日、有田川町社会福祉協議会清水事務所に提出したエコキャップの記事が同事務所で発行されている広報「社協有田川」に掲載されました。

ECO CAP

小さなキャップも分ければ資源

エコキャップ収集活動

取り組みのご紹介

12月23日（水）、株式会社坂口製作所の方々が、当会清水事務所にエコキャップ15，639個を届けてくれました。坂口製作所では『エコアクション21』という可燃ごみの排出量削減や排水量の削減など環境に優しい取り組みを行っており、その一環としてエコキャップ収集活動を続けて行ってくれています。収集にご協力いただいた職員・地域の皆さまご協力ありがとうございました。

この他にも、地域の皆さまから多くのエコキャップが各事務所に持ち寄られています。これからも、誰でもいつでも始められる「ちょいボラ」にご協力よろしくお願いいたします。

【お問合せ】有田川町住民活動センター（有田川町社会福祉協議会内）　☎0737-23-8800

●環境人づくり企業大賞2020、環境大臣賞受賞記事が掲載されました。

環境人づくり企業大賞2020、中小企業区分の社内協働部門で環境大臣賞を受賞した記事が有田川町で発行している「広報ありだがわ」と毎日新聞「和歌山版」に掲載され、記事を見た方々からお祝いのメッセージを頂きました。環境大臣賞を受賞したことは坂口のイメージアップにすごく繋がったと思います

坂口製作所「環境 人づくり企業大賞2020」環境大臣賞

社長ら、有田川町長表敬

中山正隆・有田川町長（右から2人目）と坂口製作所の坂口清信社長（右端）

「環境 人づくり企業大賞2020」で環境大臣賞を受賞した「坂口製作所」（大阪市）の坂口清信社長らが、中山正隆・有田川町長を表敬訪問した。

環境省などが主催する同賞は、環境に配慮した企業活動をリードする人材を育成し、その活動をバックアップする企業を表彰する目的で2014年に始まった。昨年10月から12月に大企業区分28件、中小企業区分33件の計61件の応募があった。

同社は1951（昭和26）年に大阪市でアルミ製箱の製造で創業。67年に旧清水町（現在は有田川町の一部）に和歌山工場を建設。現在はアルミ・ステンレス製品の設計・製造を中心に新幹線の部品から選挙の投票箱まで幅広い製品を手掛ける。

今回の表彰ではリサイクル性の高い素材の加工を本業とし、環境活動を行っている点や、工場見学など地域住民との交流が評価され、中小企業区分社内協働部門で受賞した。

坂口社長は「創業70年を迎える年にこのような賞をいただけてありがたい。工場で働く社員の8～9割は有田川町民。創業者の祖父が清水出身で、私も中学まで清水で育った。企業活動を通じて地元を盛り上げていければ」と話した。中山町長は「町として、エコなまちづくりを進めている中で、企業での環境活動が評価されたことがうれしい。今後も連携して清水地域の活性化に取り組めれば」と語った。（上野山友之）

道の駅隣りで便利

串本 橋杭岩一望 ホテル開業

ホテルの「フェアフィールド・バイ・マリオット・和歌山串本」が4月上旬、串本町鵜野川にオープンした。

同ホテルは道の駅「くしもと橋杭岩」向かいにある。米ホテル大手のマリオット・インターナショナルと橋水ハウスが共同で進める「Trip Base 道の駅プロジェクト」の一環として開業する県内初のホテル。

同プロジェクトは、道の駅に隣接するエリアでホテルを展開し、地元企業との協業や地域活性化を目指す。第1弾として全国15カ所で順次開業する。

ホテルは地上7階建て。25平方メートルほどの客室90室を備える。山側と海側の客室があり、海側の客室からは国の天然記念物・橋杭岩を一望できる。

「環境人づくり企業大賞 2020」環境大臣賞 受賞

清水地区に工場を置く株式会社坂口製作所が、環境省などが主催する「環境人づくり企業大賞2020」の中小企業区分社内協働部門で「環境大臣賞」を受賞しました。

アルミやステンレスといったリサイクル性の高い素材の加工を手がけるとともに、工場見学の受け入れなど地域との交流活動も行っていることが評価されての受賞となりました。

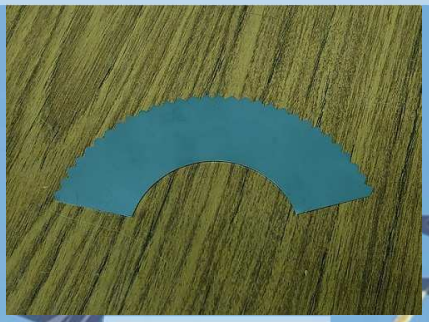
同賞は、環境に配慮した企業活動をリードする人材を育成・輩出し、その活動を支援する企業を表彰するものです。

写真（左から）
＝品質保証室グループリーダー 平林 新一氏、工場長 下垣 彰伸氏、有田川町長 中山 正隆、代表取締役 坂口 清信氏

表紙の「ブーケ」の加工ポイント

●多段曲げの限界への挑戦

「多段曲げの限界への挑戦」をテーマに製作したもので、本作品は、「花」、「リボン」、「台座」の三つのパーツで構成されています。まず、各パーツの製作方法について解説します。
まず「花」の部分です。SUS304、板厚0.3mmの素材から扇形に型抜きしたブランク（写真2）に、プレスブレーキを用いて多段曲げを施し、「の」の字状に加工します（写真3）。ねじれが発生しないよう注意しながら、2mmピッチで徐々に目測でRを大きくしていき、金型の限界まで曲げていきました。「花」一個あたりおよそ77工程を費やしています。
本部品の寸法公差は0.5mm(目測値)となっています。



＜写真2＞

＜写真3＞

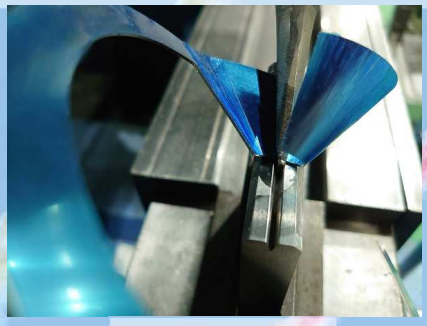
プレスブレーキによる加工後の外観を写真4に示します。最後に手作業で形状を整えることで、目指す円錐状の花(写真5)の完成となります。本作品では6個の花を製作しました。

＜写真4＞

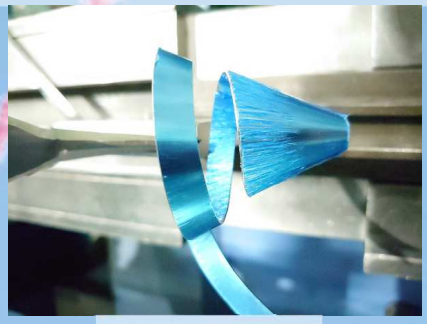
＜写真5＞

次に「リボン」の部分では、レジューサ(円錐形状)とスパイラルを組み合わせた展開、製作共に難しい形状に挑戦しています。SUS304、板厚0.6mmの素材から切り出したブランク（写真6）に1.5mmピッチで多段曲げを施し、まず円錐状の部分を成型します(写真7)。リボン先端のスパイラル部分は、ねじれに注意しながら徐々に径を変化させることで、滑らかな曲線形状を実現しました（写真8）。
本部品の寸法公差は0.2mmとなっています。実は今回最も苦労したのがこの「リボン」の製作でした。特に下部円錐の整合には苦労しました。テーパ、直径、巻き数など微調整を繰り返し、都合4回の試作を経てようやく形状が確定しました。

＜写真6＞

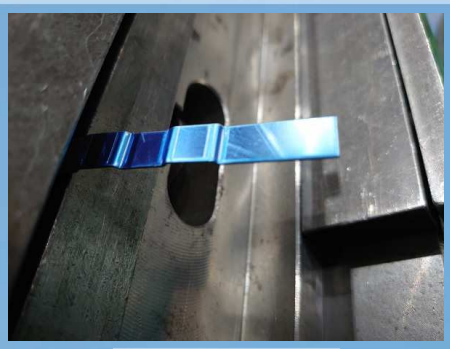


＜写真7＞



＜写真8＞

最後に板金加工で「市松模様」を再現した「台座」の部分です。短冊状にカットした部材に短冊の幅に合わせ、板厚分の曲げ加工をプレスブレーキで施していきます（写真9）。こうして製作した表面用、裏面用の部材各５本を、順に差し込みつつ組み合わせていきました（写真10）。「台座」の製作には６０回の曲げ工程を要しました。寸法公差は0.1mm、組み合わさった台座が平坦になっていることをご確認ください。



＜写真8＞

＜写真9＞

以上のように、本作品を構成する３つのパーツそれぞれが、弊社の曲げ加工技術の粋を集めて製作されたものであることをお分かりいただけたと思います。各「花」の中心に心棒を入れて6個の花を束ね（写真11）、「リボン」の中に入れた状態（写真12）で台座に栓溶接すれば、「ブーケ」の完成です。「多段曲げの限界」というテーマに挑戦しつつ、意匠面でもユニークな作品になったと自負しています。

＜写真10＞

＜写真11＞

＜写真12＞

環境関連法規制等のとりまとめ

本社及び和歌山工場共、環境関連法規制等への違反はありません。
また、関係当局により違反等の指摘及び近隣住民からの苦情は過去3年間ありません。

環境関連法規制の名称	該当する要求事項	該当する設備・項目
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	・委託契約書	・混合廃棄物の委託管理 ・廃油の委託管理
	・保管基準	
	・産業廃棄物管理票の発行と保管	
	・産業廃棄物管理票交付等状況報告書の提出	
	・特別管理産業廃棄物管理責任者の選任	
騒音規制法	・特定施設設備の届け出	・液圧及び機械プレス、せん断機、コンプレッサー等
	・基準値（65db）の遵守	
振動規制法	・特定施設設備の届け出	・液圧及び機械プレス、せん断機
	・基準値（65db）の遵守	
フロン排出抑制法	・廃棄、修理時の回収義務	・業務用エアコン、スポットクーラー
	・簡易定期点検、定期点検の実施及び記録	
浄化槽法	・浄化槽の保守点検実務	・浄化槽
	・年1回の浄化槽定期点検実務	
消防法	・少量危険物貯槽所の届け出	・灯油、塗料、シンナー貯蔵取扱い、火災報知器、消火
	・保管量の遵守	
	・消防施設点検と報告	
	・防火管理者の選任	
毒物劇物取締法	・施錠、劇物表示、飛散漏れ防止	・洗浄剤
特定化学物質障害予防規則	・第二類物質、第三類物質	・溶接ヒューム、マンガン及びその化合物、呼吸用保護具

代表者による全体の評価と見直し･指示

環境経営方針：変更の必要性　有
- 「6．グリーン購入を計画的に進めます。」は一定の成果が上がったと判断し、次年度の環境経営方針から除外し、以降の項目の番号をそれぞれ繰り上げます。
- 「2．単位売上あたりの電力・化石燃料使用量を低減し、二酸化炭素排出量の削減を進めます。」を「2．カーボンニュートラルの早期実現に向け、単位売上当たりの電力・化石燃料使用量を低減します。」に変更します。

環境経営目標・環境経営活動計画：変更の必要性　有
- ガソリン・軽油使用量については、引き続き新型コロナによる行動抑制の影響が大きいと考えます。目標設定に関しては、この分を考慮して検討してください。
- 工場の木製パレットの処分方法を早急にご検討ください。
- また、溶接スプールの処分方法も検討課題です。他社がどのような処分をしているのか、メーカーや商社にもヒアリングしてみてはいかがでしょうか？
- 再加工材料費は目標未達ながら、全体的に改善の兆しはあり、これまでの取組が少しづつ成果を出してきたように感じます。

〇材料費の高騰が続いています。また電子部品をはじめ、様々なものの入手難も続いており、坂口の経営にも悪影響が出始めています。新型コロナについてもオミクロン変異株が確認されたことから、当面、以前の生活に戻ることは難しそうです。厳しい情勢ですが、こんな時だからこそ、次につながる新しい取組にどんどんチャレンジしていきましょう。
〇本社照明についても、できるだけ早期のLED化を進めましょう。
〇2021年は環境関連でたくさんの賞をいただくことができました。特に環境人づくり企業大賞での環境大臣賞、わかやま環境賞での特別賞受賞は、テレビ和歌山をはじめとする地元メディアでも取り上げて頂きました。このことで、多少なりとも、地域の皆さんに勇気と元気をお届けすることができたのではないかと思います。坂口の経営理念の中でも、「地域に勇気と元気を与える」会社を目指すことを謳っています。この点、改めて意識して、今後の環境活動に取り組んで行きましょう。

TRADE MARK
SAKAGUCHI SEISAKUSHO